

# 第8学年 保健体育科 学習構想案

日 時 令和7年11月21日（金）第5校時  
 場 所 8年1組教室  
 指導者 教諭 犬童 耕平

## 1 単元構想

|  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| 単元名  | 「傷害の防止」   |  |  |
| 単元の目標  | (1)交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因、交通事故などによる傷害の防止、自然災害による傷害の防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。<br>(2)傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。<br>(3)傷害の防止について関心を持ち、教科書の資料を活用したり、身近な情報などを収集したりして課題について調べるなど、粘り強く取り組むことができるようにする。                      |  |  |
| 単元の評価規準  | 知識・技能   | 思考・判断・表現   | 主体的に学習に取り組む態度  |
|  | ①交通事故や自然災害などによる災害は、人的要因や環境要因などが関わって発生していることを理解したことを言ったり書き出したりしている。<br>②交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解していたことを言ったり書き出したりしている。<br>③自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害にそなえておくこと、安全に避難することによって防止できることを理解したことを言ったり書き出したりしている。<br>④応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解しているとともに、心配蘇生法などの技能を身に付けている。 | ①傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。                                   | ①傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。  |
| <b>単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</b>   |   |  |  |
| 傷害の発生には様々な要因があることやそれらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できることを理解し、実生活と関連付けながらそれらを他者に伝えたり、表したりできる生徒 |   |  |  |
| <b>単元を通した学習課題</b>  |   | <b>本単元で働かせる見方・考え方</b>  |  |
| 「防災の心得」を作成し、地域のために防災マスターになろう！  |   | 個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、傷害等のリスクの軽減と未然防止に向けた安全な環境づくりと関連付けること。    |  |
| <b>指導計画と評価計画（7時間取扱い 本時6／7）</b>   |   |  |  |
| 過程   | 時間  | 学習活動   | 評価の観点等<br>★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」   |
| 一  | 1   | ○単元全体の見通しをもち、めあてを設定する。<br>○傷害の発生要因についてまとめる。                                      | ★【態①】 発言、ノートなど<br>傷害の防止について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。<br>【知①】 発言、ノートなど                                  |
|  |   | ○交通事故の発生要因についてまとめる。<br>○交通事故による傷害を防ぐために必要であることについてまとめる。                          | ★【知②】 発言、ノートなど<br>交通事故による傷害は、人的要因、環境要因及び車両要因が関わり合っ起こることについてアウトプットしている。<br>【思①】 発言、ノートなど                    |
| 二  | 1   | ○犯罪被害を防ぐために必要であることについてまとめる。  | ★【思①】 発言、ノートなど<br>犯罪被害の防止について、事例をもとに考えたり、日常生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。<br>【知③】 発言、ノートなど                      |
|  |   | ○自然災害の一次災害と二次災害についてまとめる。<br>○自然災害時に安全を確保し、 <u>傷害を防止するために必要であることについてまとめる。【本時】</u> | ★【知③】 発言、ワークシートなど<br>自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や、災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要であることについて理解したことをアウトプットしている。 |

|   |   |   |  |
|---|---|---|--|
| 三 | 1 | ○出血、骨折や捻挫の応急手当の方法の確認と、応急手当の実習を行う。             | 【知④】 発言、ノートなど  |
|   |   | ○心肺蘇生法やAEDの実習を行う。<br>○「防災の心得」を振り返り、単元のまとめをする。 | ★【態①】<br>心肺蘇生法やAEDの実習について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている<br>【知④】 発言、ノートなど |

## 2 単元における系統及び生徒の実態

| 学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)  |                             |      |     |                          |
|---|-----------------------------|------|-----|--------------------------|
| 中学校学習指導要領 保健分野 第2学年(3)「傷害の防止」<br>ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。<br>(ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。<br>(イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。<br>(ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。<br>(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。<br>イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。 |                             |      |     |                          |
| 教材・題材の価値  |                             |      |     |                          |
| 傷害の発生には様々な要因があり、それらに対する適切な対策によって傷害の多くは防止できること、応急手当は傷害の悪化を防止することを理解することに適している。また、包帯法やAEDの使用を含む心肺蘇生法などの応急手当を習得することに適している。   |                             |      |     |                          |
| 本単元における系統   |                             |      |     |                          |
| 小学校第5学年<br>体育(保健領域) けがの防止   | 中学校第2学年<br>保健体育(保健分野) 傷害の防止 |      |     | 高等学校<br>保健体育(保健) 安全な社会生活 |
| 生徒の実態(単元の目標につながる学びの実態)  |                             |      |     |                          |
| <b>■本単元の学習に関する意識の状況</b>   |                             |      |     | (生徒数: 18人)               |
| 調査内容  | よく                          | まあまあ | あまり | ない                       |
| 日常生活で安全に気を付けて生活していますか。  | 6                           | 7    | 5   | 0                        |
| 地震や水害などの自然災害について関心がありますか。   | 5                           | 11   | 2   | 0                        |
| 自分が住んでいる地域の危険箇所について知っていますか。   | 5                           | 11   | 2   | 0                        |
| 地震や水害が起きた時に、自分の命を守る方法を知っていますか。  | 6                           | 9    | 3   | 0                        |
| 地震や水害があった時の対応について、家族と話をしていますか。  | 3                           | 9    | 6   | 0                        |
| <b>■考察</b><br>事前アンケートから、比較的安全に気を付けて生活しようとしている集団ではあるが、約3割の生徒はあまり気を付けていないことがわかる。令和2年7月豪雨で本村が被災し、大きな影響を受けた生徒が多い状況でもあり、自然災害への関心が高い。地域のハザードマップを活用した学習を経験したこともあり、自分が住んでいる地域の危険箇所について知っている生徒が多い。災害時に身を守る方法についても、全体的に知っていると答えた生徒が多い。しかし、自然災害時の対応について、家族と十分に話していない生徒が約半数いることがわかる。  |                             |      |     |                          |

## 3 指導に当たっての留意点

本校の校内研究のテーマは、『状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成』である。

【視点1】「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」

手立て1: 単元配列表を作成し、各教科横断的な学びになる工夫

○傷害の防止について日常生活と関連付けて考えることができるよう、他教科の学びを生かしながら、学びを深められるようにする。

手立て2: 子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定の工夫

○傷害の防止についての学習内容をまとめる「防災の心得」を毎時間提示し、学習の見通しを持つことができるようにする。

○問題解決学習の場面では、複数の事例を準備し、多様な視点から思考する活動を取り入れる。

○本時では、球磨村に關係の深い自然災害である大雨、台風、地震、大雪について取り扱うことで、主体的な学びになる学習を仕組んでいくようにする。

手立て3: 子供が自らの意思で表現したり、行動したりする場の設定

○単元を通して毎時間話し合い活動を取り入れることで、様々な意見と交流し、自らの考えを深めることにつなげる。

#### 4 本時の学習

(1) 目標 自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や、災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要であることについて、理解できるようにする。

#### (2) 展開

| 過程 | 時間 | 学習活動<br>(◇予想される児童の発言)  | 指導上の留意事項<br>(学習活動の目的・意図、内容、方法等)   |
|----|----|--|---|
| 導入 | 2  | 1 本時の課題をつかむ。<br>◇今回は自然災害による傷害の防止についてだな。  | ○これまでまとめてきた「防災の心得」を振り返り、本時の見通しを立てる。   |
| 展開 | 10 | 2 課題解決に向けて活動する。<br>(1) 自然災害発生時に起こりうる傷害について整理し、本時の学習課題を設定する。<br>①「大雨・台風」、「大地震」、「大雪」時に発生する傷害を、人的要因、環境要因の視点で整理する。<br>②本時の学習課題を設定する。   | ○事前に保護者と考えてきたそれぞれの自然災害時に起こりうる傷害について、人的要因と環境要因の視点で分類させる。<br>○自然災害時に発生する傷害を整理することで、傷害を防ぐための防止策を考える課題設定へとつなげるようにする。  |
|    | 20 | <p style="text-align: center;"><b>【学習課題】自然災害時に安全を確保し、傷害を防止するために必要なことは何だろうか</b></p> (2) それぞれの自然災害による傷害の防止について必要なことを考える。<br>①各班に3つの自然災害の担当を割り振り、個人思考する。【共通実践事項1】<br>②大雨・台風、地震、大雪のそれぞれのグループで集まり、意見を共有する。<br>【共通実践事項2】<br>③元の班に戻り、それぞれから出た意見を共有し、整理する。<br>◇どの自然災害でも防災バッグの準備が必要だ。<br>◇事前に避難所、避難経路を決めておこう。<br>◇地域のハザードマップを確認しておこう。<br>◇家具や飛ばされやすい物の対策が必要だ。<br>(3) 全体共有をする。<br>◇どの自然災害も身の回りの環境を改善したり、事前の確認や対策をしたりしておくことで被害が少なくなりそうだ。<br>◇大雨や台風などに関する情報はテレビやインターネットから入手できそうだ。<br>◇どの自然災害の時も、発生時は身の安全を確保する行動が必要だ。 | ○学んだことを実生活へつなげるために、球磨村に関係が深い自然災害を選択する。<br>○導入時に整理した自然災害発生時に起こりうる傷害を参考にしながら、安全を確保し、傷害を防止する方法について考えるようにする。<br>○同じ自然災害について考えたグループで集まり、意見を共有する。<br>○それぞれの自然災害に応じた対策や避難のしかたについて考える活動を通して、災害時に備えた安全対策や災害時の安全な行動について必要なことを考えることができるようにする。  |
|    | 13 | <p style="text-align: center;"><b>【期待される学びの姿】</b></p> 自然災害時の行動について、様々なリスクを考慮しながら状況を的確に判断し、安全な避難につながるよう、グループで話し合うことができる。 <p>(4) 本時のまとめをし、適用問題を解く。<br/>①まとめをする。</p> <p style="text-align: center;"><b>【まとめ】自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や、災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要である。</b></p> ②適用問題を(落雷)解く。<br>◇雷ナウキャストで雷の情報を確認しておこう。<br>◇黒雲が見えたり雷鳴が聞こえたりしたら、すぐ避難しよう。  | ○3つの自然災害から傷害を防止するために必要なこととして、災害に備えた安全対策や災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要であることに気付かせ、キーワードをまとめる。<br>○正しい情報を得る手段の例として、河川のライブカメラや緊急地震速報について、紹介する。  |
| 終末 | 5  | 3 本時の振り返りと、今後の学習の見通しをもつ。【共通実践事項3】<br>◇「防災の心得」の完成まであと少しだ。<br>◇次は応急手当てについてだな。  | ○適用問題で落雷時の対応について考え、本時の学びの確認とする。<br><b>【具体的評価規準】(知③)</b><br>○自然災害による傷害を防止するためには、災害に備えた安全対策や、災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要であることについて言ったり書き出したりしている。(方法：発言、適用問題)<br><b>【到達していない生徒への手立て】</b><br>○それぞれの自然災害時の対応を振り返りながら考えに到達できるよう、個別の支援を行う。<br>○振り返りの視点④「今後の生活に生かしたいこと」を示し、学びを確認する。<br>○「防災の心得」を確認し、次時の見通しをもつことができるようにする。 |

## 【板書計画】

|       |   |      |      |
|-------|---|------|------|
| 被害の防止 | 【めあて】自然災害による被害の防止についてまとめよう  |      |      |
|       | 【学習課題】災害時に安全を確保し、被害を防止するために必要なことは何だろうか                              |      |      |
|       | 「大雨・台風」   | 「地震」 | 「大雪」 |
| 人的要因  |   |      |      |
| 環境要因  |   |      |      |
|       | 【まとめ】自然災害による被害を防止するためには、災害に備えた安全対策や、災害に関する正しい情報の入手、災害時の安全な行動が必要である。 |      |      |

**防止策**  
安全対策（備え）  
防災バッグ、ハザードマップ、避難場所、避難経路確認

**情報**  
天気予報、テレビ、インターネット、ラジオ、緊急地震速報

**安全な行動**  
危険箇所に近づかない。頭を守る。早めの避難。

## 5 ICT 計画

- 課題をつかむための動画や画像の提示
- 既習内容確認のための、フラッシュカード形式の復習
- 課題解決に向けた、調べ学習でのタブレット端末の利用
- 補足説明のための、動画や資料の提示

## 6 見方・考え方を働かせて、終末や次時以降の学習に生かす計画

- 本学習を通して、他教科の学びや日常生活での健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、自分自身や社会生活の傷害等のリスクの軽減と未然防止に向けた安全な環境づくりと関連付けて考えることができるようにする。